

福岡歯科大学 成長発達歯学講座成育小児歯科学分野のこの10年の変遷

本教室は1973年4月に吉田 穰（ゆたか）教授のもと、西日本地区で初めての小児歯科学教室として開講した。そのあと1990年3月に、17年間教室を育てられた吉田教授が退職され、同年4月より2代目である本川教授が本教室の主任教授として就任された。本教室は2001年4月より、講座編成のために教室名が成育小児歯科学分野と変更され、障害者歯科学分野および矯正歯科学分野の3分野が一緒になり、成長発達歯学講座となった。そして、2005年7月に小笠原榮希講師が、また8月に久保山博子講師が退職し、同年8月から馬場篤子が講師昇格、同年11月久留米市の聖マリア病院から柳田憲一が講師に就任した。本川渉教授が2010年3月に定年退職を迎え、その後任として同年11月に尾崎正雄准教授が3代目教授に就任した。2011年5月には、柳田憲一講師が九州大学に移動し、岡 暁子助教が本学の生体構造学講座機能構造学分野から成育小児歯科学分野の講師に就任した。現在（2013年3月）は、教授1名、講師2名、助教2名、医員3名、大学院生4名、研修研歯科医2名の体制で学生教育、臨床そして研究活動を行っている。

福岡歯科大学医科歯科総合病院小児歯科における紹介患者数は年々増加しており、地域貢献と病診連携が充実している。また、2011年12月に福岡市博多駅前に福岡歯科大学口腔医療センターが設立され、遠くから来院される患者の対応が可能となった。診療の特色として、咬合誘導や小児口腔外科系を得意分野としており、過剰歯摘出、埋伏歯の牽引などを本学矯正歯科学分野と連携して行っている。さらに2013年4月からは、福岡歯科大学医科歯科総合病院に小児科外来が開設となったことから、小児医療の拠点となれるよう、小児科との連携も深めていくつもりである。

本分野は卒前教育として、本学の4学年に小児歯科学講義と成長発達歯学実習（小児歯科系）を担当している。卒後教育としては、福岡歯科大学小児歯科同門会と本教室が合同で行っていた「合同ゼミ」を「小児口腔医療研究会」と改名し、小児歯科医療を医学的観点から見直すとともに、地域の小児歯科医療の向上を目指すつもりである。また、本分野は海外との交流が深く、韓国全北大学歯科大学の白秉周教授が半年間、客員教授としてお見えになられたのをきっかけに、同教室との姉妹関係を結び2年毎の合同研究発表会を行っており、平成25年度には本教室の40周年記念と同時に第10回の合同発表会を行う予定である。

研究では、歯科教育用VRシュミレータの開発において米国との共同研究を行っており、歯胚および口蓋の発育に関する免疫組織学的研究、マウス外傷歯モデルを用いた歯根膜再生に関する研究、小児の歯科医療心理学的研究など、大学院生が中心となって行っている。また教室の研究が

国際的評価を受けるよう努力している。日本は世界的にみても歯科技術の高い国であり、アジア各国から注目を浴びているにも関わらず、日本国内では元気がない事が気になる。これからはアジアの歯科医療が日本を中心としてグローバル化し、そして何よりも日本国内で歯科医師が高く評価されるような仕事をしていきたい。更に、現在行っている教育、診療、研究を発展させ、また口腔医学の発展に寄与できるような人材を育成したいと考えている。



長崎大学

大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学講座のこの10年の変遷

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学講座はちょうど10年前の2002年に前任の後藤譲治教授から現任の藤原卓教授にバトンタッチしました。この10年間の人事異動として、2004年9月に福本敏講師（現・東北大学歯学研究科教授）が九州大学歯学研究院口腔保健推進学分野助教授に栄転され、後任として九州大学歯学研究院より2005年2月に佐々木康成が講師に就任しました。その後、佐々木康成講師は2010年3月に退局され、神奈川県立こども医療センター歯科科長に栄転されました。2007年8月に久保田一見講師が退局されて慶応大学形成外科に異動し、後任として2007年11月より星野倫範が講師に昇任しました。2005年には末藤千香子助手、2006年には